

現代倫理道德研究会（発表要旨）平成 30 年 11 月 7 日

CAAS(Career Adapt-Abilities Scale)の  
日本文化への適応に向けた先行研究調査報告  
－日本の徳との関連において－

教育研究室

研究員 木下城康

本論は、キャリア支援領域で用いられる構成主義カウンセリングのアセスメントのうちキャリア・アダプタビリティ評価の比較研究を用いて、日本文化への適応に向けた可能性と課題について検討した。

現在、キャリア・アダプタビリティは 6C（関心、統制、好奇心、自信、貢献、共働）の次元を軸に考えられている。これまで、日本での適応という言葉は、社会や組織に自己や個人が順応し、同化する意味で扱われてきた。一方で、この欧米発のキャリア支援におけるアダプタビリティでは、自己が自己や個人に社会環境をアダプトする意味を含んでいる。

これからのキャリア支援におけるアダプタビリティは、クライアントのニーズによってこの両者（自己が社会環境に適応、自己に社会環境を適応）をそれぞれ尊重して扱うことが求められるが、日本での展開に当たっては、文化や文脈による日本の特質を発見することによって、新しいモデルとして世界に発信できる可能性がある。これまで、甘えや依存が強調されてきた日本の自己・アイデンティティの研究は、新たな局面を迎えているといえるだろう。